

H5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルス (H5N1ウイルス)に抗ウイルス効果を示す天然果実

帯広畜産大学 動物・食品衛生センター 教授 今井邦俊

連絡先 E-mail: imaiku@obihiro.ac.jp TEL: 0155-49-5892

キーワード: 鳥インフルエンザ、H5N1ウイルス、ポリフェノール

概要 インフルエンザの予防・治療には、主にワクチン接種とタミフルなどの抗ウイルス薬の投与が行われている。タミフルはH5N1ウイルスにもある程度効果を示すが、耐性ウイルス出現も報告されている。従って、変異を起こさない効果の高い抗ウイルス薬の研究が世界的に進められている。抗ウイルス薬開発における一つの方向性は、安全性の点から、天然物(植物など)から効果の高い抗ウイルス物質を検索し、その機序を解明し、実用化することである。

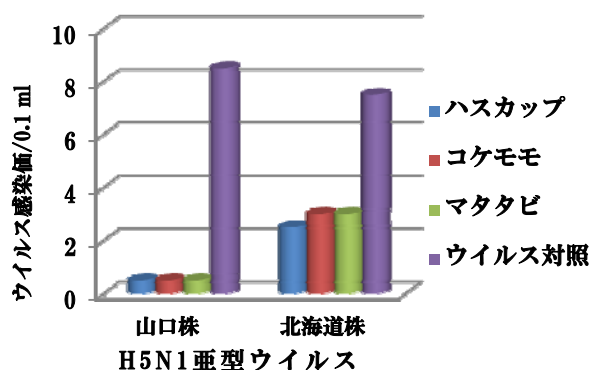
シーズの特徴

近年、植物由来物質(ポリフェノール)が、抗インフルエンザ作用を示す報告が多くなされた。しかし、多くの研究で人インフルエンザウイルスが用いられており、H5N1ウイルスに関する報告は非常に少ない。一口にポリフェノールといってもフェノール性水酸基を分子内に含む多種多彩な物質の総称であり、機能も異なると考えられる。Martinら(2011)は、アフリカ産ペラルゴニウム属植物抽出液が、人インフルエンザウイルスに対して効果を示したが、H5N1ウイルスには効果がなかったと報告した。この様に同じ植物でも由来の異なるウイルスへの効果が違うことが示唆された。野口ら(2008)は、ポリフェノールであるアントシアニンを多く含むカシスエキスの抗インフルエンザウイルス作用を調べた。カシスアントシアニンは抗インフルエンザウイルス効果を示すと報告されたが(Knox et al., 2001)、野口らは、アントシアニン以外のエキス画分に強い不活化効果があることを示した。この様に、ポリフェノールの抗インフルエンザウイルス効果については、研究が十分に行われていないことから評価が一定していない。植物由来物質は、インフルエンザウイルス感染時の細菌感染の抑制、また免疫賦活作用や抗酸化作用などの薬効も同時に示すことが考えられることから、総合的な治療薬としての役割を果たすことが期待される。

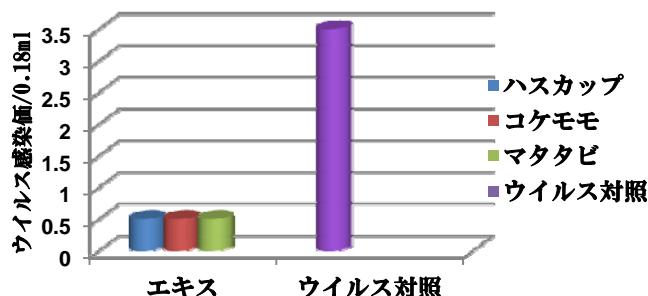


ハスカップ コケモモ マタタビ

抽出物のウイルス不活化効果



細胞におけるウイルスの増殖抑制



研究者からのメッセージ

特許出願中であり、共同で研究を進めて頂ける企業・機関等からの問い合わせをお待ちします。

問い合わせ先: 帯広畜産大学地域連携推進センター E-mail: crcenter@obihiro.ac.jp
Tel: 0155-49-5771